

国産花きの国際競争力増強のための技術開発

目標

花き振興法の成立を受け、花き産業の振興を図るため、研究開発を積極的に支援

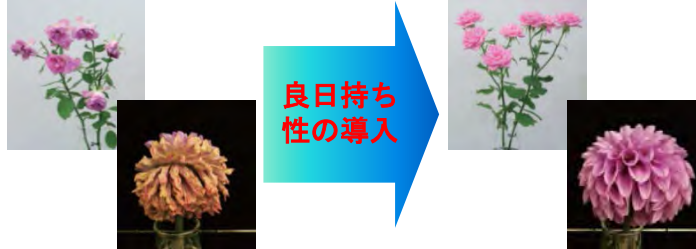
・実需ニーズとして要望の高い日持ち性や、早生（わせ）性のような基盤的形質の導入には長い年限が必要のため、品種の流行り廃りの激しい市場では民間企業が自ら行うことは困難。

・生産条件（気候・資材等）が有利な海外産の輸入花きに対抗し、国産シェアの奪還、さらには輸出振興を目指すためには、高品質化を追求するだけでなく、低コスト化・安定生産のための先進的な栽培技術や鮮度保持技術の開発が必要。

・夏場に開催されるオリンピック・パラリンピック東京大会において国産花きの品質の高さをアピールするため、夏場における花きの安定生産技術や日持ち性延長技術の開発が必要。

内容

需給ニーズを踏まえた良日持ち性、早生性等の基盤的品種を開発



多品目で展開し、我が国の品種開発力を総合的に強化

民間等の育種を支援

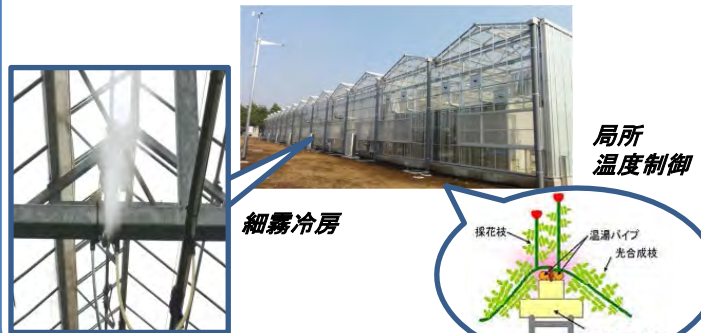
技術を組み合わせることで日持ち性を延長

品質保持剤、低酸素処理、梱包資材の開発・改良等



輸出にも対応可能な品質保持期間・鮮度保持期間の延長

局所温度制御、細霧冷房、病害防除技術の開発・改良



生産コストを低減・安定生産技術体系を構築

（光熱費を削減）

成果の普及と効果

・実需ニーズの高い日持ち性の向上により、消費者の満足度が向上し、購買意欲の増大が図られ、消費量増大が期待。

・オリンピック・パラリンピック東京大会競技会場をはじめとした公共空間を花で鮮やかに演出。選手村の装飾・ビクトリーブーケ等の会期中の鮮度保持。

・国産シェア奪還を含む国内生産額拡大及び品目別輸出戦略の目標を下支え。

民間企業と連携した技術開発・社会実装

プロジェクトの今後の進め方

○農林水産省は、本PJについて東京都農林総合研究センターとの意見交換を行っており、今後のプロジェクトの推進において情報交換・共有を図りつつ、連携していくことを確認している。

○一方、東京都、大会組織委員会のカウンターパートが現時点では明確に決まっていないため、オリンピック・パラリンピックにおける本PJの成果の活用が不透明である。

○本PJは技術開発にリードタイムを要するもので、大会直前での対応が難しいことから、PJの工程表作成等に当たってはこのことを十分留意しつつ、詳細事項について検討する必要がある。

○当面、以下の想定メンバーのうち参集できる範囲で、タスクフォース（TF）推進会議の前にWGを開催することとし、東京都及び大会組織委員会にアピールできる内容となるよう検討することとする。

【今後のスケジュール（案）】

時期	会議等	内容等
11/13	第2回オリパラTF	第2回TF推進会議の内容に関する意見交換等
11/中下旬	WG開催(1~2回程度)	具体的内容の検討、工程表の作成
11/下旬	第3回TF推進会議	取組内容、工程表作成上の詳細確認
12/上中旬	WG開催(1~2回程度)	取組内容、工程表案取りまとめ
12/下旬	第4回TF推進会議	取組内容・工程表の確認
	第3回オリパラTF	取組内容・工程表の承認

想定されるWGメンバー（検討中）

○農林水産省 農林水産技術会議事務局 技術政策課、研究統括官
生産局 園芸作物課（花き産業・施設園芸振興室）

○独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所

○東京都 研究開発担当部局、農林総合研究センター

○内閣府（科学技術イノベーション担当）

※WGの座長は技術政策課長。

※本プロジェクトは、現時点では農林水産省単独の取組となっているが、今後、他府省等からのWGへの参画を検討する。